

# 大阪商業大学学術情報リポジトリ

## 日韓社会における試験と縁起の食物

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪商業大学比較地域研究所 公開日: 2023-02-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金, 泰虎, KIM, Tae Ho メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/1304">https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/1304</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



〔論文〕

## 日韓社会における試験と縁起の食物

金 泰 虎

はじめに

1. 日韓社会における試験の歴史
    - 1-1. 日本社会における試験の始まり
    - 1-2. 韓国社会における試験の誕生
  2. 試験を控えて縁起の良い食物
    - 2-1. 日本
    - 2-2. 韓国
  3. 試験を控えて縁起の悪い食物
    - 3-1. 日本
    - 3-2. 韓国
- むすびにかえて

はじめに

日韓社会では、試験を控えて「縁起の食物」、つまり「縁起の良い食物」と「縁起の悪い食物」があり、それらを弁えて摂取する傾向が見られる。これらの縁起に関わる食物には、どんなものがある、いつから縁起を意識し始めたのか、またその縁起の良し悪しの背景にはいかなる理由があるのかについて考察を行うのが本稿の目的である。

日本では、とりわけ「縁起担ぎ(えんぎかつぎ)」＝「験担ぎ(げんかつぎ)」という言葉が存在しており、縁起の良い食物は食べ、縁起の悪い食物は食べないということがある。一方、韓国では試験を控えて縁起に関わる言葉はないものの、同じく縁起の良し悪しに関わる食物があり、縁起の良い食物は積極的に取り入れ、悪いものは遠ざける。

まず、本稿を展開していく上で、予めいくつかの点について、次のように明確にし、定義を行うことにする。

一つ目に、試験を控えて縁起の食物を意識する主体は、受験者の本人である。

二つ目に食物とは、料理、食材、加工食品、そして飲み物を含む人間が摂取する食べ物の総称と定義する。一般的に食材は調理をして料理に仕上げるが、食材のまま食べるものもあるため、食材も食物の範疇に入れて分析の対象とする。

三つ目に「試験を控えて」と言われる際、いつからいつまでの期間を意味するのか明確ではない。そのため、本稿では起点と時期、つまり期間とは試験の前日から当日の試験が終わるまでとする。

ところで、特定の食物に対し縁起が悪いということで「遠ざける」、または「敬遠する」といった負の意味合いとして摂取をしないことは、一般的に「禁忌」と言われる傾向がある<sup>1)</sup>。しかし厳密さを考慮して、四つ目に試験と関わる縁起の悪い食物について、禁忌という用語は用いないことにする<sup>2)</sup>。

そして、日韓社会における試験と言えば、就職試験、入学試験、免許や資格試験、また昇進や進級の試験など様々な種類がある。これらの試験の中で免許や資格、昇進や進級の試験は、概ね定員に基づく選抜というより、一定の条件や基準を満たしているかを問う試験であるので、競争や選抜が伴う就職や入学の試験とは多少異なる。その意味で、五つ目は選抜を目的とする入学や就職の試験を中心に考察していく。

これらの五つに関して明示のもと論を進めていくが、試験を控えて食物の縁起の良し悪しを気にする社会は、その裏を返せば、試験が選抜の重要な手段として用いられ、競争の原理に基づいている環境の社会であることの証左と言える。その意味で、日韓社会の試験期における食物の縁起担ぎを追究するためには、両社会における選抜試験の導入を明らかにする必要がある。

今日の日韓社会では、入学や就職といった場面で、必ずと言って良いほど競争の伴う選抜試験が存在している。つまり、多数の志願者の中から適任者を選ぶため、試験というふるいにかけるのである。一般的に試験によって選抜を行う厳しい競争の環境での受験生は、藁にもすがりたいという気持ちになる。縁起の良い食物を求めたり、逆に縁起の悪い食物を避けたりする現象が起きるのは、ある意味では必然的であるとも言えよう。

キーワード：試験、縁起、食物、縁起担ぎ、験担ぎ、料理、加工食品、禁忌

1) 例えば、『禁忌』(伝統と現代社、1982年)にみるように、禁忌は食物を含む様々な制限に関する用語として幅広く使っており、タブー(Taboo)ともする。

2) 特定の食物に対し遠ざけるのは、3つの領域に分けてより正確に理解をすることができよう。一番目は医学の科学的根拠に基づき、ある特定の病気に対し避けることである。これは健康に害を与えて命を脅かす可能性があるため「禁止」、つまり禁食である。二番目は宗教的観点に戒律に基づいて遠ざけるが、これは命や健康には影響がない。例えば、仏教では酒と肉に加え、「五辛菜」の「にら・ねぎ・んにく・らっきょう・しょうが」は遠ざける。仏教の歴史の中で積み重ねてきた食物の摂取に関する掟である。楞嚴経では五辛菜を食すると、淫がめばえ、怒りが増してくると、その理由を示している。信仰上、特定の食物に対し忌み嫌って避けるため「禁忌」が適切であろう。三番目は呪術的観点から遠ざけることである。例えば、試験を控えて縁起の悪い食物は、医学や宗教のレベルよりは遠ざける根拠が乏しく、まじないことであるため「忌避」と言える。

ところで、試験を控えて縁起を意識する食物は、その縁起の良し悪しとは関係なく、いずれも日常生活の中で摂取する食用のものである。試験を控えての状況に限り、縁起の良い食物は食べ、縁起の悪い食物は食べないというまじないの考えに基づき縁起の良し悪しに拘る。縁起の良い食物を食べたからと言って必ず合格したり、縁起の悪い食物を摂取したからと言って不合格になったりすることはない。しかし日韓社会では、試験を控えている概ねの人々は、まじないの縁起担ぎの食物に対する意識を持っている。

日韓では、試験を控えての縁起の食物に関する学問的研究はあまり行われておらず<sup>3)</sup>、社会における興味半分の話題としての傾向が強い。この状況を踏まえて、本稿では生活の営みの中にみる食物に対し、試験にまつわる縁起の食物としての意識がいつ頃から芽生え、どんな食物を勧められてきたか、逆にいかなる食物を避けるのか、縁起の良し悪しの根拠や背景についても追究を行う。

## 1. 日韓社会における試験の歴史

日韓社会における試験を控えての縁起の食物を分析するためには、いつから公の場で選抜の試験制度が取り入れられたのかを踏まえて追究する必要がある。選抜の試験と縁起の食物の出現は深く関わっているため、その意味で縁起の食物を分析する上で選抜試験の導入時期を明確にするのは欠かせない。

### 1-1. 日本社会における試験の始まり

日本社会では、前近代から近代国民国家成立期の明治維新まで競争の伴う選抜試験はほぼ行われていなかった<sup>4)</sup>。しかし、明治期に入り初めて選抜試験による入学や公務員登用が行われた。

明治期における選抜の入学試験は学校、地域、状況によって多様性があったため一概には言えないが、次の事例からその一端がわかる。明治10(1877)年1月6日、選抜の入学試験に関しては、『朝野新聞』の「開天伝信記」に「法律経済学校創設広告(中略)其学力材能を試験して」という記事から確認される。そして明治11(1878)年、「県立千葉中学定制」には入学試験によって入学を認めるとし、試験科目を定めている<sup>5)</sup>。なお、明治22(1889)年、巖谷小波(1870~1933)が書いた短編小説『妹背貝(いもせがい)』の「秋」には「陸軍医学校の入学試験があるので」という下りが見られる<sup>6)</sup>。

3) 韓国では、黄京淑・李憲洪「청소년 집단의 속신 문화와 도시 민속 문화-부산 지역 인문계 고등학생을 중심으로- (青少年集團の俗信文化と都市民俗文化-釜山地域の人文系高等学生を中心に-) (『東北亜文化研究』13、동북 아시아 문화학회(東北アジア文化学会)、2007年、韓国)が、韓国釜山地域を中心とする高校生を対象に試験を控えて縁起の良い食物と縁起の悪い食物を調べている。

4) 天野郁夫『試験の社会史』(東京大学出版会、1983年)31頁。

5) 前掲天野『試験の社会史』101頁。そして、『千葉県教育百年史』(第3巻、千葉県教育委員会、1978年)541~542頁。

6) 『日本国語大辞典』(小学館、1972年)

これらの事例から明治期に選抜の入試が導入されたことがわかる。しかし、すべての入学が選抜試験によるものではなく、無試験の入学もあった。つまり、選抜の入試であっても入学定員を超えた場合のみ試験による選抜を行ったり、学力試験<sup>7)</sup>に基づいて選抜したりもした。本格的に日本社会において選抜の入学試験が展開される時期は、大正・昭和期である<sup>8)</sup>。

次に日本社会の就職試験、つまり選抜の試験による公務員の採用について触れよう。明治17(1884)年、伊藤博文(1841～1909)が官僚の任用試験制度に関する「文官候補生則案」<sup>9)</sup>を作成したことが選抜試験のきっかけとなった。翌年、伊藤博文は初代の内閣総理大臣に就任し、明治20(1887)年に現在の公務員に相当する官吏の任用基準である「文官試験試補及見習規則」を制定した<sup>10)</sup>。これを起点に日本では、選抜試験による公務員の採用が始まるようになった。

このように、日本社会では選抜試験による入学や就職は、近代国民国家成立期に近代化の改革を進める過程で誕生した。つまり、明治期から選抜の入学試験、公務員試験など様々な試験が実施され、現在に至っている。今日の日本では、選抜試験の中でも就職試験よりは入学試験の競争が激しいと言える。

## 1-2. 韓国社会における試験の誕生

コリア半島では、古代の国家体制のもとで教育機関が設けられていたが、いつから選抜試験による入学が行われていたのか明確ではない。前近代には教育機関への入学、官吏の採用に当たり個々人の能力よりは血統や家柄が重んじられ、選抜試験による能力主義は重視されない身分制であった。しかし、この状況の中でも選抜による入学や人材の登用が行われていた。

まず、前近代において教育機関に入学する選抜試験の実施について考察を行う。選抜試験による入学は、高麗時代の成宗5(986)年、国立大学に該当する国子監が設置<sup>11)</sup>されてから、その事例が確認できる。睿宗4(1109)年、国子監の中に7齋を設け、太学齋には崔敏庸等70名、武学齋には韓自純等8名を試験で選抜し分けて(寮に)住ませたとする<sup>12)</sup>。このことから国子監の入学に選抜の試験を実施したことがわかる。

しかし、当時は誰もが自由に入学試験を受けられたわけではなく、祖父や親の官職によって受験者の志願できる入試コースが決まっていた。つまり、選抜の入学試験に出願するた

7)『ブリタニカ国際大百科事典』(CASIO、2016年)には、明治27(1894)年、学力試験による尋常中学校入学の規定が定められ、それ以来、中等以上の入学希望者は学力試験を実施して選抜されたと記している。

8)天野郁夫『学歴の社会史』(新潮社、1992年)4頁。一方、吉野剛弘『近代日本における「受験」の成立「資格」試験から「選抜」試験へ』(ミネルヴァ書房、2019年)は、明治30年代後半以降の受験について検討を行っている。

9)伊藤博文編『明治百年史叢書』(秘書類纂9・官制関係資料、原書房、1969年)

10)『勅令』(第37号、明治20(1887)年7月23日)

11)国子監の設置については、朴贊洙『高麗時代教育制度史研究』(景仁文化社、2001年、韓国)61頁を参照されたい。

12)『高麗史』(巻28、選挙2)には「試取大学崔敏庸等七十人、武学韓自純等八人、分処之」とある。

めには家柄や身分による制限のもと、コースごとに同じ資格や身分の受験生同士が競争する形であった。

今日の韓国社会でも選抜試験による入学、とりわけ大学入試において熾烈な競争が繰り返されている。韓国は、世界で例を見ないほど競争が厳しい選抜の入学試験であることはよく知られている。

一方、韓国社会における就職試験の歴史は前近代の高麗時代(918~1392)に遡る。つまり高麗時代に科挙制度が導入され、試験による官吏の選抜が始まった<sup>13)</sup>。『高麗史』の「双翼伝」によると、「九年始建議設科、遂知貢挙、以詩賦頌策、取進士甲科崔暹等二人明経三人卜業二人」とある<sup>14)</sup>。要するに、「光宗9(958)年、はじめて科(科挙)の設置を建議し、知貢挙となり、詩・賦・頌・策をもって進士の甲科に崔暹など2人、明経3人、卜業2人を選抜した」とする。

ここで、科挙(試験)の導入を建議した双翼は、高麗時代の光宗7(956)年に後周から使臣としてやってきて、帰国せず高麗に定着した人物である。この建議の内容に基づいて科挙が実施され、前近代の韓国社会における選抜の就職試験が始まったのである。

しかし、科挙制度が導入されたからと言い、すべてが選抜試験による能力主義に基づいて官吏の採用を堅持したわけではない。祖父や父の官職、または国家に功績を残した人の子孫などは科挙を受けず特別に官吏として採用される陰叙という制度もあった。

この科挙は、高麗王朝に代わった朝鮮時代にも同じく官吏採用の選抜試験として行われ、高麗時代より実施が強化された。これによって朝鮮時代には、文官は文班、武官は武班に従事する両班という制度が発達し、引いては選抜された官僚による支配が文治主義思想を強めた。

ところで、朝鮮時代に科挙を行う科場(試験場)の様子的一端を窺い知る絵画が残されている<sup>15)</sup>。この絵画は、18世紀に画員の金弘道(1745~?)が描いた「貢院春曉図」である。「貢院春曉図」とは、「春の曙に行われた科挙試験場(貢院)の絵」という意味である<sup>16)</sup>。この他にも科場の様子を描いている絵画が伝来されている。それは19世紀の作品であると推測される平生図の中の「小科応試」である<sup>17)</sup>。

この科挙のような選抜試験による就職は、今日にも実施されており、その競争が激しい。例えば、韓国の国家公務員試験の場合、2021年度の採用倍率は定員の三桁にも上る<sup>18)</sup>。韓国では、公務員試験の受験を目指す人たちは「公試族」と言われており、考試院という施

13) 科挙制度や試験については、許興植『고려의 과거제도(高麗の科挙制度)』(一潮閣、2005年、韓国)を参照されたい。

14) 『高麗史』(巻93、列伝6)

15) 『韓国日報』(韓国日报社、2020年9月24日、韓国)によると、アメリカに流出されていた「貢院春曉図」を、韓国京畿道安山市が購入し韓国に取り戻していると報じている。

16) 詳しくは、鄭柄模「새벽 과거 시험장의 풍경(夜明け科挙試験場の風景)」(『국악누리(国楽ヌリ)』84輯、国立国楽院、2007年、韓国)を参照されたい。

17) 韓国国立中央博物館所蔵の平生図の中に収められている絵画である。

18) 国家機関である人事革新署「사이버 국가고시 센터(サイバー国家考試センター)」の統計資料によると、2021年度、国家職の9級公務員の場合、行政職の中で教育行政は、募集定員の51名に対し14,394名が志願して、その倍率は282.2:1であると公表している。

設で寝泊まりしながら合格を目指して何年も試験準備をする。ちなみに、韓国社会では日本のように新卒を重視することはないため、選抜の入社試験に落ち就職浪人をするケースが多い。

このように、韓国社会では前近代から選抜試験による入学及び就職という競争制度を取り入れている。今日も変わらず、選抜試験に基づく激しい競争が繰り返されている。この厳しい選抜の試験を控えては藁にもすがりたい気持ちになり、縁起の食物を求めるようになると思う。

## 2. 試験を控えて縁起の良い食物

日韓社会では、試験を控えて縁起の良い食物として、どのようなものがあるのかを調べ、その理由と背景、またいつから社会に受け入れられるようになったのかについて分析を行う。

### 2-1. 日本

#### 2-1-1. 料理や食材の食物

日本社会では、試験を控えて縁起の良い食物として、どのようなものがあるのか、付番をして取り上げるとともに社会に現われる時期や縁起が良いとされる根拠について明らかにする。

まず、①「蓮根」は、球根植物の食材である。その内部に穴が貫通しているため、「先を見通せる」、または「試験に通る」という意味での縁起の良い食物として認識されている。

②「こんぶ」(昆布)は、和食の出し汁や料理の食材として欠かせない食物である。「こんぶ」は、「昆布巻き」(こぶまき)の例のように「こぶ」とも呼ばれ、「よろこぶ」の「喜ぶ」という語呂合わせの「試験に合格して喜ぶ」との意味合いである。

③「たい」(鯛)は、刺身をはじめとして煮物にも使われる食材である。鯛は「めでたい」の「たい」という語呂合わせに焦点を合わせた縁起の良い食物である。

④「ぶり」(鰯)は鯛と同様、生活の中で用いられる魚の食材である。ぶりも合格祈願の縁起の良い食物として社会に受け止められている。しかし、そもそもは合格より努力して昇進する出世の意味合いの食物である。その所以は、ぶりは成長の過程で名前が変わりつつ大きくなるため、出世を意味する魚である<sup>19)</sup>。

⑤「かつお」(鰹)は、そもそもは男に特化された「かつお」(勝男)という意味から「かつ」は「勝つ」と見なす。同じく「かつおぶし」(鰹節)の「かつ」も「勝つ」という意味で縁起の良い食物である。「かつお」は鰹節以外に、火にあぶって刺身にする「かつおたたき」にもする。いずれも試験を控えて「かつ」、つまり「勝つ」という意味合いにあやかる合格願望の食物である。

⑥「たこ」(蛸)は、「多幸」という響きから「多くの幸運が舞い込む」、つまり合格を意

味する縁起担ぎの食物として社会に受け入れられている。また、たこの吸盤のように「くらいつく」という意味合いで合格を祈願することもある。

一方、英語表記のたこである「Octopus」は、和製英語で発音をすると、「オクトパス」である。つまり、「置くとパス」の「パス」は「Pass」の意味であるため、「置くと通る」という語呂合わせになる。

⑦「とんかつ」(豚カツ)は、豚肉に衣をつけて油で揚げた料理である。名称の中の「かつ」が「かつお」(鰹)と同じく「勝つ」という音通のことから縁起の良い食物として社会に受け入れられている。同様に「カツ丼」や「カツカレー」の「カツ」も「勝つ」の意味合いで用いられている。

この「豚カツ」や「カツ丼」における「カツ」は「カツレット」の略語である。カツレットは英語の「Cutlet」、つまり豚肉・牛肉・鶏肉などを厚くスライスにして小麦粉・溶き卵・パン粉をまぶし油で揚げた食物を意味する。

⑧「ウィンナ」は、「ウィンナソーセージ」(Vienna Sausage)のことで羊やヤギの腸にすりつぶした肉を詰め、燻煙や湯煮した食物である。つまり、ウィーン風のソーセージ(Sausage)なのである。このウィンナは、英語の「ウィナー」(Winner)の「勝者」という意味合いの語呂合わせであり、試験の勝者は合格者なのである。

⑨「おくら」は、その植物の性質に粘り気があるため、「粘り強く勝つ」という意味としての縁起担ぎの食物である<sup>20)</sup>。

⑩「納豆」も「おくら」と同じく粘着性のある食物として取り上げられる。ねばねばとする粘着性があるので「最後まで粘り強く諦めない」、つまり「Never give up!」という意味合いである。おくらと納豆は、粘着性の性質にあやかる縁起の良い食物である。

⑪「いりこ」は、「入校」と普通の語呂合わせで、合格して入校する意味合いの縁起担ぎの食物である。いりこには、3つの種類がある。つまり、それらは「いりこ(海參・煎海鼠・熬海鼠)」「(ナマコの腸を取り除き、塩水で煮てから乾かしたもの)」「いりこ(煎り子)」「(米や大麦を煎って粉にしたもの)、そして「いりこ(熬り子・炒り子)」「(小さいイワシな

19)「ぶり」(鰯)は、その名前になるまで成長(出世)する過程で数回にわたり名称が変わる。その名称は<参考>のように地方によって差がある。

このように、成長につれて名前が変わる魚であるため出世魚と見なされている。その成長は極端で稚魚の頃に比べてぶりに至ると、大きさが倍以上になる。江戸時代に学者が昇進すると名前を改める仕来りがあり、その祝いに使われる食物である。

20)一方、「おくら」は形の意味合いも込められており、五角形なので切っても切っても五角の形である。それは「切っても(不合格にさせようとしても)五角(合格)」だという意味合いである。ちなみに、同じく五角形の鉛筆も五角、つまり「合格」の縁起担ぎとして取り上げられる。

<参考>ぶりに成長するまでの名称の変化

地域	サイズ	名称
関東地方	稚魚	モジャコ
	35cm以下	ワカシ
	35cm～60cm	イナダ
	60cm～80cm	ワラサ
関西地方	80cm以上	ぶり
	稚魚	モジャコ
	40cm以下	ワカナ・ツバス・ヤズ
	40cm～60cm	ハマチ
	60cm～80cm	メジロ
北陸地方	80cm以上	ぶり
	稚魚	モジャコ
	35cm以下	コズクラ・コゾクラ・ツバインソ
	35cm～60cm	フクラギ
	60cm～80cm	ガンド
	80cm以上	ぶり



どを塩水で茹でて乾かしたものである。特に、「いりこ」は「入校」としての意味合いなので、試験の中でも入試に関わる縁起の食物である。

⑫「おむすび」は、そもそも農業を営む民が飯を握ったものであり、これをもって山神の力を信じていたため、縁起の良い食物である。一般的には「おにぎり」と言われる握り飯の「おむすび」は、「お結び」として「良い結果を結びつける」、「良い縁をつなぐ」という意味合いの縁起担ぎである。試験と結びつけて考えると、「お結び」とは学業の縁が「結ばれる」、つまり「合格する」という意味の縁起担ぎなのである。

⑬「いよかん」(伊予柑)という果物は、試験を控えて「良い予感」という意味の語呂合わせの「いいよかん」と発音できる。この語呂合わせをもって「試験に通りそうな、良い予感」という縁起の良い食物である。

⑭「落ちないりんご」は、もう一つ縁起の良い果物として取り上げることができる。その由来は、1991年9月28日早朝、台風19号が青森県南津軽郡藤崎町を通過したことによる。猛烈な風が吹き、収穫期を間近に控えたりんごがほぼ壊滅状態となったが、その中でも強風に耐え落ちていないりんごがあった。この落ちないりんご、つまり落ちないので合格するとの意味合いで合格祈願の縁起担ぎとして全国的に評判となった<sup>21)</sup>。

⑮「煎茶」・「番茶」は、昔から「茶柱が立つと縁起が良い」、つまり茶柱が立つと良いことが起こると言われている。つまり、茶をたてる際、茶柱が立つ現象は縁起が良い。

このように、試験を控えて縁起の良い食物を取り上げてきたが、これらは日本で全国的に知られている。しかし、全国ではなく地方に強く支持を得ている当地における縁起担ぎの食物もある<sup>22)</sup>。

## 【小括】

日本社会における縁起の良い食物を取り上げてきたが、これらを簡単にまとめると、右頁上の(表1)の通りである。

21) 青森県南津軽郡藤崎町の農家は、(有)落ちないりんごを設立し、全国に販売を行っている。そして、同じく合格という縁起担ぎのりんごでも当地のものもある。一方、青森県板柳町の地域レベルのものとしての「祈合格」文字入りのりんごが試験を控えて縁起の良い食物として知られている。『東奥日報』(株式会社東奥日報社、2022年1月20日)によると、板柳町の住民有志は、1973年から今日に至るまで、次の写真で見えるように、「祈合格」の文字が入ったりんごを作り、受験合格を願っていると報じている。板柳町の県青年大会板柳大会を運営する地元スタッフが集まり、地域貢献活動の一環として地元の中学校に高校受験の合格を祈願して、このりんごを贈呈している。りんごは有袋で栽培するりんごに文字と絵馬を描いたシールを貼って育てたものである。



(写真：東奥日報社による)

22) 例えば、関西地域における縁起の良い食物としては、「西京焼き」が取り上げられる。西京焼きの「西京」は「さいきょう」、つまり「最強」の発音と同じであるため縁起の良い食物として見なされている。西京焼きとは、京都の白味噌の「西京味噌」に酒やみりんを加え、魚などを漬け込ませて焼いたものである。次に、「暁どら焼き」は京阪百貨店などで購入できる「枚方銘菓の暁(あかつき)」のことであるが、合格したあかつきに、どら焼きを食べて祝う。言わば、合格してからの結果を祝うものである。なお、滋賀県大津名物である三井寺の「力餅」は、この餅を食べて試験に向けての「力を備える」という意味合いである。力餅は怪力で名高い弁慶に因んで名づけられており、「三井寺力餅本家」は明治2(1869)年に創業したとされる。

(表1) 日本社会における縁起の良い食物

番号	食物の名称	縁起の根拠	担ぎたい縁起	備考
①	蓮根	穴が貫通し	見通しが良い	お節料理
②	こんぶ(昆布)	喜ぶ	良いことがあって喜ぶ	お節料理
③	たい(鯛)	めでたい	良いことがあって祝う	お節料理
④	ぶり(鰯)	名前が変わりつつ大きくなる	出世	お節料理
⑤	かつお(鰹)・かつおぶし(鰹節)	かつは勝つ	勝利する	お節料理
⑥	たこ(蛸)	多幸 オクトパス(Octopus)	多くの幸運が舞い込む 置くとパス(Pass)	お節料理 明治期以降
⑦	豚カツ・カツ丼・カツカレー	カツ(Cutletの意味)は勝つ	勝利する	明治期以降
⑧	ウィーナ(Vienna)	ウィナー(Winner)	勝者になる	明治期以降
⑨	おくら	粘り気がある	粘り強く勝つ	
⑩	納豆	粘り気のある食物	粘り強く諦めない	
⑪	いりこ(海參・煎海鼠・熬海鼠) いりこ(煎り子) いりこ(熬り子・炒り子)	入校	合格して入校	入試に特化
⑫	おむすび	縁を結ぶ	良い結果を結びつける	
⑬	いよかん(伊予柑)	いいよかん	良い予感	
⑭	落ちないりんご	強風に耐えて落ちない	耐えて落ちず合格する	1991年
⑮	煎茶・番茶	茶柱が立つ	縁起が良い	

繰り返しになるが、今日の日本社会における(表1)①～⑮は、縁起の良い食物である。とりわけ、これらの中で①～⑥は、そもそもは正月料理の「お節料理」として食べられる品々であり<sup>23)</sup>、江戸時代に武家を中心に形作られた食物である<sup>24)</sup>。要するに、①～⑥は「お節料理」から由来しており、正月料理の縁起はもとより他の縁起担ぎにも転用されている食物である。その意味で、江戸時代に始まったお節料理は選抜の試験制度が取り入れられる明治期以降、縁起担ぎの食物になったと推測される。ことに⑥「Octopus」は英語が絡んでいるため、英語が本格的に日本に伝わる近代国民国家成立期以降、縁起の良い食物になったと考える。ちなみに、お節料理ではない⑦・⑧も英語が関わっており、その成立は同じ時期であろう。

その中でも①②③④⑥は、合格のために縁起の良い食物を選ぶということよりは合格後の結果的なことを表している意味合いが強い。つまり、①「見通しが良い」・「前途が明るい」、②「喜ぶ」、③「めでたい」、④「出世」、⑥「多幸」は合格してからの意味合いが強い。この結果中心の意味合いを使って、元来のお節料理の縁起から合格を祈願する縁起担ぎの食物へ転換されたと考える。

特に、③は正月料理や試験に当たっての縁起担ぎとしての意味合いだけでなく、様々な祝いの場で用いられている。例えば相撲取りが優勝し、祝う場で鯛を手に取り、記念写真を撮るのも同じく「めでたい」という意味である。なお、④も昇進(出世)に縁起が良い食物として門出やめでたい時によく用いられる。

要するに、(表1)の縁起担ぎの食物は、①は穴、④は成長の過程、⑨・⑩は粘着性とい

23)『世界大百科事典』(平凡社、1981年)

24)『料理食材大事典』(主婦の友社、1996年)394頁。

う特徴からの縁起である。⑭は、(表1)の中で一番歴史の浅い縁起担ぎの食物であり、選抜試験という特殊な状況において「落ちないリンゴ」から良いとこ取りをし、縁起を担ぐとすることから誕生した。⑮は、日本社会の茶をめぐる伝統的な縁起の飲み物であるが、今日の縁起担ぎとしても取り入れられている。

## 2-1-2. 加工食品の食物

日本では、食品会社が生産する加工食品をもって縁起の良いものとして縁起担ぎとする例がある。今日、試験を控えて縁起担ぎするたくさんの商品が出回っており、付番のもと網羅し分析を行う。

まず、①「ポッキー」(Pocky)は、売しているチョコレート菓子であるとして支持を集めているのは、次のすると、「キッポウ」(吉報)という意味である。逆さまの商品は、通常のはの広報部によると、限定品は2007年は通信教育や出版などの事業を行う



江崎グリコ株式会社が1966年から発売<sup>25)</sup>。このポッキーが合格祈願の食物写真のように、ポッキーを逆さまに味になるユニークな方式の語呂合わせ生產品ではなく限定品である。会社12月18日から販売を始め、2017年にベネッセ(株式会社ベネッセコーポレーション)も加わったが、この年を最後に販売は休止状態である。

②「カール」は、1968年から明治(会社明治)が発売しているトウモロコシスナック菓子である。明治菓子だというたい文句で販売しなかった日本に初めて登場した



治製菓株式会社(2011年からは株式会社ロコシを原料とした親指大のノン製菓株式会社は日本初のスナックである。スナック菓子という概念カールである。

次は、会社の広報部による情報ズンには、このカールの語頭に「ウ」を加えて「ウカール」、つまり試験に合格する意味の「うかる」(受かる)の語呂合わせとして縁起担ぎの食物として販売をした。実際、写真のように、製品には合格祈願という文字も書き入れている。2016年12月の生産を最後に販売中止となった。また、2017年8月から株式会社明治はカールも生産中止と決めたが、西日本地域だけは継続して生産と販売をしている。

である。2000年12月から受験シーズン

③「キットカット」(KitKat)は、日本では1973年に「マッキントッシュのキットカット」という名称でイギリスのロントリー・マッキントッシュ社と提携して不二家が発売したチョコレート菓子である。しかし、1988年、ロントリー・マッキントッシュ社がネスレに

25) 毎年の11月11日は、日本ではポッキーデー、韓国ではペペロデー(뽕뽕로 데이)といい、験担ぎだけではなくポッキーの形に因んだ記念日を定めている。ポッキーと記念日については、金泰虎「日韓社会の「記念日」」(『言語と文化』18号、甲南大学国際言語文化センター、2014年)150頁を参照されたい。

26) キットカット (Kit Kat) という名称の食物が登場したのは18世紀のイギリスであると言われる。チョコレート菓子としてのキットカットは、ヨークの菓子会社ロントリーが開発し、1911年に「キット・カット」(Kit Cat及びKit Kat)という商標の登録を行った。1920年代に「キット・カット」(Kit Cat)の名称でチョコレートを販売した。現在のキットカットと同じフォーフィンガーバーは、1935年にイギリスで「ロントリーズ・チョコレート・クリスプ」という名称で発売した。

買取され、ネスレ日本株式会社が生産している<sup>26)</sup>。

このキットカットは、試験を控えている人に縁起担ぎとして手軽に渡せる菓子として広まっている。ネスレ日本株式会社の広報部による情報は、次の通りである。2002年頃から福岡を中心とする受験生の親や友人が受験生の「お守り」や縁起担ぎとして大量にキットカットを購入していた。その理由は、福岡地方で言われる「きつと勝つとお」とは、「きつと勝つよ」という意味があるからである。この「きつと勝つとお」は、「キットカット」と語呂合わせが類似しており、「きつと勝つ」という意味で通じる。この福岡地域の動向を受け、会社は2009年からパッケージのウラに手書きのメッセージを書く欄を設け、受験生にメッセージを添えて渡すことができるように工夫を行い販売している。

要するに、福岡地域から自然発生的に生まれた商品名の語呂合わせによる縁起担ぎの動きに対し、製造会社は販売拡大を狙い文字の枠も備えて合格を祈願するようにしている。

④「ハイレモン」は、1980年からムネのような錠菓である。次の情報2005年12月から受験シーズンには縁に、ハイレモンという名称に「ル」販売した。すなわち、「入れるもん」表記し、合格という文字も記している中止となった。



明治製菓株式会社が発売しているラは会社の広報部によるものである。起担ぎの商品として、写真のようを加えて「ハイレルモン」としてという語呂合わせをもって商品名をる。しかし、2008年12月をもって販

⑤「コアラのマーチ」は、1984売しているチョコレート菓子である写真のように、商品に合格を目2005年11月29日からだとする。毎ショップで販売しており、入試を



年から日本の株式会社ロッテが発る。会社の広報部によると、次の指すコアラの絵を印刷したのは、年、受験シーズンにはオンライン念頭に入れた食物と言える。

コアラは寝ていても木から落ちないように応援する意味のコアラのマーチなのである。さらに、パッケージには合格という文字も記されており、縁起担ぎの販売戦略の食物であることがわかる。

⑥「勝ちグミチョコ」というチョコの広報部の情報によると、2008年12度限りで終わった縁起担ぎの食物でミチョコ」という商品名からヒント企画したとする。しかし、グミチョコになった。



チョコレート菓子は、明治製菓株式会社月24日から会社が発売したが、単年ある。これは1991年から生産した「グを得て縁起担ぎの商品として生産をコモ2019年9月をもって販売終了と

⑦「トッポ」(TOPPO) は、1994造し、販売しているチョコレート

年から日本の株式会社ロッテが製菓子である。会社の広報部による

と、2006年12月25日から受験シーズンには、ラジオ番組「SCHOOL OF LOCK!」とコラボした「トッパ」(TOPPA)が受験生応援アイテムとして販売されたとする。つまり、「SCHOOL」という文字から入試に特化した縁起の食物であり、トッポ(TOPPO)の最

後の「O」を「A」にして、トッパのトッパは「突破」として解釈し、「試合いで用いる。しかし、2017年かられる<sup>27)</sup>。

さらに、食品工場加工食品として良い食物についても考察を行う。

⑧日清食品株式会社は、1971年から販売してきた。しかし、2023年1月「プヌードルシーフード」・「カップ応援パッケージ(Package)として発



プヌードル」・「勝プヌードルシー」という名称である。つまり、「カップ」(Cup)における「カッ」は「勝」に置き換えただけで受験シーズンに販売する限定商品となっている。上掲の写真は、カップヌードル(Cup Noodle)の「勝プヌードル」である。商品には「合格必勝」という文字に加えて達磨の姿、その右目には商品の中身を表す材料を描き、左目には黒を入れられるように空白の目になっている。カップの蓋は金色にしており、ゴールドメダル(Gold Medal)の色彩としてイメージ(Image)化している。とりわけ、3種類の「勝プヌードル」の蓋を開けると、蓋の裏には(表2)③「めでたい」と鯛、⑥「おくとパス」とタコ、そして「大大吉」の文字と猫の絵、なお商品の外側と同様、「合格必勝」の文字がプリント(Print)されている。

⑨「カルピス」(CALPIS)は、日本のカルピス株式会社が製造してアサヒ飲料が販売する乳酸菌飲料である。1919年、カルピスを開発して発売し、この飲料と同名の企業の創業社となった。しかし、いつからか定かではないが、世間の人々の間でカルピスという商品名の語頭に「ウ」を加え、「ウカルピス」という語呂合わせの「受かるピース」とし、縁起担ぎに特化した食物として広がっている。これは会社の販売戦略によって誕生したものではなく、世間の人々が作り上げた縁起担ぎである。

⑩「煎茶」は加工食品である。煎茶は縁起の良い飲み物であることは、すでに言及してきたが、家庭で入れて飲むことができる。株式会社伊藤園は「缶入り煎茶」を発明して、1985年から加工製品として世界で初めて発売をしている<sup>28)</sup>。

27) ちなみに、食べるものではなく口に入れるガムもある。日本の株式会社ロッテが製造し、1997年から販売している「キシリトール」(XYLITOL)というガムがある。本来、キシリトールを噛むことは、脳に良い刺激を与えるという狙いの商品である。しかし、語呂合わせで「きっちり通る」という縁起担ぎとして通用している。キシリトールのガムを噛んで眠気を覚まし、きっちり試験に通るということである。

28) 「ダルマサイダー」という飲み物は、木村飲料株式会社が販売している静岡県の当地ドリンクである。パッケージに黒目のない達磨がプリントされている。そこに願いごとを書く欄に記入した後、達磨に黒目を書き足して祈願をする商品である。2005年から必勝合格ダルマサイダーを発売し、縁起の良い食物となった。

(TOPPA)として限定販売した。この経験にトッパ(突破)する」という意味トッパは販売休止の状態であるとされ

て生産している飲み物の中で縁起の

ら「カップヌードル」という商品を2日から「カップヌードル」・「カップヌードルカレー」の3種類を受験生

売している。その語呂合わせは「勝プヌードル」・「勝プヌードルカレー」という名称である。つまり、「カップ」(Cup)における「カッ」は「勝」に置き換えただけで受験シーズンに販売する限定商品となっている。上掲の写真は、カップヌードル(Cup Noodle)の「勝プヌードル」である。商品には「合格必勝」という文字に加えて達磨の姿、その右目には商品の中身を表す材料を描き、左目には黒を入れられるように空白の目になっている。カップの蓋は金色にしており、ゴールドメダル(Gold Medal)の色彩としてイメージ(Image)化している。とりわけ、3種類の「勝プヌードル」の蓋を開けると、蓋の裏には(表2)③「めでたい」と鯛、⑥「おくとパス」とタコ、そして「大大吉」の文字と猫の絵、なお商品の外側と同様、「合格必勝」の文字がプリント(Print)されている。

⑨「カルピス」(CALPIS)は、日本のカルピス株式会社が製造してアサヒ飲料が販売する乳酸菌飲料である。1919年、カルピスを開発して発売し、この飲料と同名の企業の創業社となった。しかし、いつからか定かではないが、世間の人々の間でカルピスという商品名の語頭に「ウ」を加え、「ウカルピス」という語呂合わせの「受かるピース」とし、縁起担ぎに特化した食物として広がっている。これは会社の販売戦略によって誕生したものではなく、世間の人々が作り上げた縁起担ぎである。

⑩「煎茶」は加工食品である。煎茶は縁起の良い飲み物であることは、すでに言及してきたが、家庭で入れて飲むことができる。株式会社伊藤園は「缶入り煎茶」を発明して、1985年から加工製品として世界で初めて発売をしている<sup>28)</sup>。

## 【小括】

製菓会社の加工食品を中心に、試験を控えて縁起の良い食物を考察してきたが、簡略にまとめると、(表2)の通りである。

(表2)日本社会における縁起の良い加工食品

番号	加工食品		縁起担ぎの商品			加工食品の製造元
	商品名	生産と販売の期間	縁起担ぎの名称	縁起の意味合い	縁起担ぎの販売期間	
①	ポッキー (Pocky)	1966 ~	キッポウ	吉報	2007 ~ 2017	江崎グリコ株式会社
②	カール	1968 ~ 2017	ウカール	受かる	2000 ~ 2016	明治製菓株式会社
③	キットカット (KitKat)	1973 ~	キットカツ	きっと勝つ	2009 ~	ネスレ日本株式会社
④	ハイレモン	1980 ~	ハイレルモン	入れるもん	2005 ~ 2008	明治製菓株式会社
⑤	コアラのマーチ	1984 ~	コアラ	落ちない	2005 ~	株式会社ロッテ
⑥	グミチョコ	1991 ~ 2019	勝ちグミチョコ	勝つ	2008 (単年度)	明治製菓株式会社
⑦	トッポ (TOPPO)	1994 ~	トッパ (TOPPA)	突破	2006 ~ 2017	株式会社ロッテ
⑧	カップヌードル (CUP NOODLE)	1971 ~	勝ブスードル 勝ブスードルシー フード 勝ブスードルカレー	合格必勝	2023 ~	日清食品株式会社
⑨	カルピス (CALPIS)	1919 ~	ウカルピス	受かるピース	-	カルピス株式会社
⑩	煎茶	1985 ~	茶柱	茶柱が立つ	-	株式会社伊藤園

(表2)で見ると、商品の名称に因む語呂合わせやダジャレによる縁起担ぎの食物であるが、その縁起の歴史は浅い。これらは工場生産の製品であるが、①~⑦は菓子製品、⑧は麺類、⑨・⑩は飲み物の食物である。とりわけ、①~⑧は会社が製造する加工食品であるが、①~⑦は企業の縁起担ぎという販売戦略によるものである。

しかし、①・②・④・⑥・⑦は縁起担ぎの商品として販売期間が長くは続かなかったが、⑧はごく最近新たな縁起担ぎとして発売し始めた。各社の広報部によると、企画した縁起担ぎの商品が販売中止になった理由は、通常の商品よりコストが高くつき、売れ行きも良くなかったためとされる。

一方、③・⑤は縁起担ぎの商品として持続的に販売をしている。縁起担ぎとしての⑨は世間の人々の間で自然発生であり、⑩も元々は会社側が縁起担ぎという販売戦略の狙いがあったわけではなく、ただ伝統的な茶を商品化したものである。

このように、日本社会では試験を控えた時、加工食品名をもって縁起の良い食物とする傾向がある。①~⑧の縁起担ぎの商品は、製造会社のアイデア、または社会の動向を踏まえての企画によるユニークな発想に基づく語呂合わせやダジャレを取り入れている食物である。つまり、企業の販売戦略と縁起担ぎ商品の需要がかみ合った③・⑤は持続して販売している反面、①・②・④・⑥・⑦は長続きしなかった。

## 2-2. 韓国

韓国では、縁起の良い食物としてどのようなものがあるか取り上げることにする。前近代の史料から縁起担ぎの存在を確認しつつ、付番のもと追究を行う。

今日の韓国社会では、試験を控えて縁起の良い食物と言えば、主にくっつく粘着性のものである。それは⊖「떡」(餅) = 「찰떡」(もち米の餅)、⊖「찰밥」(もち米の飯)、⊖「엿」(飴)

である。これらはねばねばとするくっつく性質にあやかり、合格を祈願する縁起の良い食物である。

韓国社会では、縁起の良い食物としては餅がポピュラーである。韓国における餅の材料は、ほとんどうるち米である<sup>29)</sup>。粘着性と言えば、うるち米の餅より、もち米の餅のほうが優れている。したがって、試験を控えて縁起担ぎの食物としての餅は、㊦「찰떡」＝「찰떡」(もち米の餅)をよく用いる。

さらに、縁起担ぎとしてほかに粘着性のある食物は、もち米で作った飯の㊦「찰밥」＝「찰떡」(もち米の飯)も合格を願望する縁起の良いものである<sup>30)</sup>。この「찰떡」(もち米の餅)は、もち米の餅のように粘着性が強い。つまり、粘着性のあるものをもって縁起担ぎの食物としているが、「うるち米」よりは「もち米」のほうが粘性に優れているため、もち米を用いる。

次に㊦「엿」(飴)は餅よりも一層よくくっつく粘着性をもっている。このくっつく特徴にあやかる縁起を担ぐことは餅と同様、試験に合格する意味の食物である。

このように、韓国社会では試験を控えて縁起担ぎとして粘着性のある食物にあやかる傾向が強い。韓国語には粘着性を意味する「붙다」(くっつく)という語彙がある。そこで「시험에 붙다」とは、直訳は「試験にくっつく」であり、意識としては「試験に合格する」・「試験に受かる」という意味合いである。その意味で、粘着性の食物の性質に言葉の意味合いを融合させる形で縁起担ぎが生まれている。韓国社会における縁起の良い食物である餅の「찰떡」、飯の「찰밥」、飴の「엿」は、日常生活の中で粘着性が優れている代表的な食物である<sup>31)</sup>。ことに、韓国社会では縁起担ぎの餅と飴は食べるだけでなく、受験者の親が試験場の校門にくっつけることもある<sup>32)</sup>。

ところで、朝鮮時代における科挙の試験場の様子を表す史料からも縁起担ぎの食物である餅と飴が確認される。『朝鮮王朝実録』には英祖49(1773)年、「李漢一啓曰、今番場屋不嚴、餅飴酒草之属、乱売於燈傘之間、其時禁乱官、宜施削罷之典」とある<sup>33)</sup>。つまり、「李漢一(1723～?)が啓状で曰く、今回の科場(科挙の試験場)は厳粛ではなく、餅・飴・酒・煙草の類を、灯や傘の間で乱れ売りしていたので、その当時の禁乱官は罷免し刑を施すべきである」とする。科場の秩序が乱れないように取り締まる臨時官職の禁乱官を設けているが、科場で餅や飴を売っているのを取り締まっていないとのことである。この科場で売っている餅や飴は縁起担ぎの食物であると考えられる。

もう一つの事例として、『朝鮮王朝実録』には正祖15(1791)年、「遣承旨、頒糕太学儒生、

29) 金泰虎「韓国社会の諺と慣用句にみる餅の意味合い」(『韓国文化研究』別冊第3号、韓国文化学会、2020年)21頁。

30) 前掲金泰虎「韓国社会の諺と慣用句にみる餅の意味合い」13頁。

31) 前掲黄京淑・李憲洪「청소년 집단의 속신 문화와 도시 민속 문화-부산 지역 인문계 고등학생을 중심으로- (青少年集團の俗信文化と都市民俗文化-釜山地域の人文系高等学生を中心に-)」245頁では、韓国釜山地域の高校生は試験を控えて縁起担ぎとして「찰떡」(もち米の餅)、「찰밥」(もち米の飯)、「엿」(飴)、「엿튀기」(ボン菓子)、チョコレートを取り上げている。しかし、「엿튀기」、チョコレートは全戸クレパールではなく釜山という当地で通用する食物であると考えられる。

32) 前掲金泰虎「韓国社会の諺と慣用句にみる餅の意味合い」18頁。粘着性の食物を試験場の校門にくっつける行為は、一般的に試験を受ける本人よりは家族や友人などが行う。

33) 『朝鮮王朝実録』(英祖49(1773)年4月9日条)

仍下御題、命諸生応製、(中略)、水原府儒生頒糕試取」と記されている<sup>34)</sup>。国王は「承旨を遣わし、太学の儒生に糕(餅)を分け与えて、御題を下し諸儒生が試験を受ける(応製する)ようにした。(中略)水原府の儒生にも糕を分け与えてから試験(科挙)を受けさせた。」とされる。つまり、国王が承旨を遣って科場の儒生に餅を配らせ、また水原府の儒生にも同じくした後、科挙試験を受けさせたのである。餅を配り、全員の受験者に良い縁起を担がせて試験を受けさせたと考える。ここでの承旨は、朝鮮時代に承政院に属する正3品の官人、そして太学は最高の教育機関である成均館の別称である。

ところで、糕は中国では日韓社会における餅であり、中国における餅とは丸い形の小麦粉系の菓子である<sup>35)</sup>。取り上げてきた『朝鮮王朝実録』にみられる餅や糕は、いずれも今日の韓国社会における餅である。

この史料にみる餅及び飴が直接、科挙試験の合格と結び付く縁起担ぎの食物であるような記述は確認できない。しかし、試験に合格するようという願いを込めた縁起担ぎの食物として登場していることには違いない。

### 【小括】

韓国社会における縁起の良い食物は、前近代からみられる。(表3)のようにまとめて示すことにする。

(表3) 韓国社会における縁起の良い食物

番号	食物の名称	食物の性質	縁起の意味合い	備考
㊟	떡 (餅) 찰떡=찰쌀떡 (もち米の餅)	くっつく (粘着性)	合格する	『朝鮮王朝実録』で確認
㊞	찰밥=찰쌀밥 (もち米の飯)	くっつく (粘着性)	合格する	
㊟	엿 (飴)	くっつく (粘着性)	合格する	『朝鮮王朝実録』で確認

(表3)にみる縁起担ぎの食物は、前近代だけではなく、今日の韓国社会においても相変わらず、試験を控えて縁起の良い食物として受け止められている。その特徴は、主に食物の粘着性にあやかるものである。そして前近代の農耕社会からの食物であり、加工食品は見当たらない。その意味で、これらの縁起担ぎの食物が登場する背景には、前近代から実施された入学や科挙といった選抜試験が深く絡んでいると言える。つまり、前近代の高麗時代に実施された選抜による入学試験や科挙という就職試験を導入して以降、縁起担ぎの食物が発生したと考える。

34)『朝鮮王朝実録』(正祖15(1791)年6月18日条)

35)中国における糕と餅については、前掲金泰虎「日韓社会の諺と慣用句にみる餅の意味合い」7～8頁を参照されたい。



### 3. 試験を控えて縁起の悪い食物

日韓社会では、試験を控えて縁起の良い食物がある一方、逆に縁起の悪いものもある。日韓における縁起の悪い食物を網羅し、その縁起の悪い理由や背景について分析を行うことにする。

#### 3-1. 日本

日本社会では、試験を控えて縁起の悪い食物にはどんなものがあるのか、番号を付けて取り上げ、その縁起が悪いとされる背景について考察する。

まず、①「汁かけご飯」は、飯に味噌汁をかけたり、飯をお茶漬けにしたりすると、飯の形が崩れることになる。したがって、工事現場の事故や山崩れなど「崩れる」という悪いイメージを連想させるため縁起が良くない。裏を返せば、試験に際し崩れるということは、試験に滑る、つまり不合格の意味である。

②「味噌」は、失敗をしたときに「味噌をつける」というふうに言われるため、縁起の悪い食物である。そこで、試験を控えて味噌を使った料理は縁起の悪い食物と認識する傾向が強い。

③「梨」は、「なし」という名称から「無し」を連想させる。したがって、梨は「試験を受けて良い結果なし」、つまり「合格なし」という意味合いになるので、試験を控えては縁起が悪い。

④「落花生」は、花が枯れ落ちた後に実をつけることや名称に「落」がついているため、試験を控えては縁起の悪い食物である。「落」は、落ちるという意味であり、試験の不合格を連想させる。要するに、落花生を食べると、試験に落ちるという意味合いになる。

#### 【小括】

日本社会では、①～④は試験を控えて縁起の悪い食物であるが、簡略に整理をすると、次の(表4)である。

(表4) 日本社会における縁起の悪い食物

番号	食物の名称	悪い縁起	縁起の意味合い	備考
①	汁かけご飯	飯の形が崩れる	試験の形から崩れる	形の連想
②	味噌	味噌をつける	失敗する	言葉の意味
③	梨	無し	良い結果が無し	語呂合わせ
④	落花生	落ちる	試験に落ちる	言葉の意味

(表4)の①は形、②～④は言葉の意味合いと絡ませ、試験を控えて縁起の悪い食物として位置づけられている。ところで、日本社会では縁起の良い加工食品は多く確認できたが、逆に縁起の悪い加工食品はほとんど見かけられない。その理由は、試験を控えて縁起の悪い食品は売れないので、企業が最初の企画の段階で縁起が悪いということがわかっているから、その商品を製造・販売するはずがないからである。したがって、加工食品の中で縁起

の悪い食品の場合は、製造されてから後付けの形で悪い縁起になったと考える。縁起の悪い食品になった場合、売れ行きによるが、製造会社は売上が振るわない商品なら製造や販売を中止にするか、あるいは乗り切るための工夫をしていくのであろう。

### 3-2. 韓国

韓国社会でも試験を控えて縁起の悪い食物が存在しており、付番をして取り上げ縁起の悪い背景についても追究を行う。

韓国社会では、試験を控えて縁起の悪い代表的な食物は曰「미역국」(ワカメ汁)である。韓国は諸国の中でワカメの消費がもっとも多い国であるが、なぜ試験を控えては縁起の悪い食物なのであろうか。

前近代から韓国社会では、出産した女性や誕生日を迎えた人は、必ずと言って良いほど「미역국」は欠かさず飲む食物である<sup>36)</sup>。この「미역국」は出産や誕生日には欠かさず飲む反面、試験を控えては避けるという相克現象が起きている。試験を控えてワカメ汁を忌避することに対する医学及び栄養学的観点の根拠が示されているわけではないにも関わらず、試験を控えては縁起が悪いということで飲まない。

ところで、韓国語の不合格という意味の表現として「미역국 먹었다」(直訳：ワカメ汁食べた)、あるいは「미역국 마셨다」(直訳：ワカメ汁飲んだ)という言い方がある。その理由は、ワカメのぬるぬるとした滑りやすい性質と、韓国語の「미끄러지다」(直訳：滑る)が融合して不合格の意味合いに繋がったと考える。そこで、「미역국」は試験を控えて縁起の悪い食物になったのであろう。ちなみに、「미끄러지다」(滑る)という韓国語の動詞は、日本と同様、単純に「滑る」という意味がある反面、「落ちる」ないしは「不合格」という意味もある。日本では、入試受験の際、「滑り止め」という語彙があり、「滑るのを防ぐためのもの」と「志望する学校に入学できない(不合格)ことを考えて別の学校も受験しておく」という言葉がある。まさしく後者の意味合いとしての滑り止めは、不合格に備えるの対策である。

次に曰「죽」(粥)も試験を控えて縁起の悪い食物として見なされている<sup>37)</sup>。韓国語の「죽을 쑤다」とは、直訳をすれば「粥を炊く」という意味である。しかし、試験に関わる意識としては、「思った通り上手くできない」、「台無しになる」、「失敗する」、「もたもたする」といった意味である。つまり、「죽을 쑤다」は、そもそも飯を炊くつもりが粥になってしまったという意味合いである。要するに、本来、目標とするもの(合格)が目標以外のもの(不合格)になり、結局は「失敗した」ということである。

36) 金泰虎「韓日中の社会におけるワカメの果たす役割と機能—前近代の史料を踏まえての多義性を中心に—」(『韓国文化研究』第11号、韓国文化学会、2021年)14～16頁。ワカメは薬材・儀礼食材・一般食材という3つの機能を果たしており、それは出産後の産婦が摂取する薬材・誕生日と三神床の儀礼食材・日常生活の一般食材とする。

37) 韓国では粥の食文化が発達しているが、金泰虎「日韓の食具と食器・膳・料理の関わり—食具の機能からみた考察—」(『北東アジア地域研究』北東アジア学会、2008年)92頁では、古来より匙文化が定着しているからだとする。

そして㉓「국밥」(クッパ)も試験を控えて縁起の悪い食物である。韓国社会では、何かのことで失敗した時に「밥말아 먹다」(直訳：ご飯を汁かけにして食べる)とする。この表現の食べ方が「국밥」であるため、試験を控えて縁起の悪い食物なのである。韓国の「국밥」と日本の「汁かけご飯」は、基本的にはほぼ同じあり方の食物である。しかし、「국밥」はスープに飯を入れる反面、「汁かけご飯」は飯にスープをかけるという違いはある。但し、韓国では「국밥」を作って提供する側は、日本と同様、飯に汁をかける。一方、飯と汁を別々に提供される「따로 국밥」(タロクッパ)の場合は、食べる側が汁に飯を入れて食べる。日韓社会における作り方に多少の相違はあるものの、どちらも試験を控えて同じく縁起の悪い食物である。

㉔「낙지」(蛸)は、頭文字の「낙」が漢字の「落」と音通である。そのことで、韓国社会では「낙」は「落ちる」ことを連想させ、試験を控えては縁起の悪い食物である。

㉕「빵」(パン)は、韓国の伝統的食糧ではなく近代国民国家成立期、つまり韓国の開化期に西洋から伝わったと考える。日常生活における「빵」は悪いイメージの食糧ではなく、最近朝にパン食をする家庭も多い。

しかし、試験を控えては縁起の悪い食糧と見なされる。その理由は、「パン」の韓国語の表記は「빵」であるが、俗語的な韓国語の意味合いとしての「빵」とは「零」だからである。つまり、「빵」の音は「零」=ゼロの意味合いになるため、試験を控えて「빵」は「빵점」(零点)を連想させる。そのため「빵」は、試験を控えては避ける食糧として認識されている。

㉖「라면」(ラーメン)、㉗「짜배기」(油で揚げたねじれた形の菓子)は、その形態がねじれていることから生まれている縁起の悪い食糧である。その形から韓国語の「꼬이다」・「뒤틀리다」(こじれる・もつれる)を連想させる。そして、韓国社会におけるラーメンは、ほとんどインスタントラーメンの麺のねじれている形を想像する。

このことで、ねじれている形とこじれる結果をだぶらせ、試験を控えては失敗であると見なす。ねじれている形は、試験が「こじれる・もつれる」という意味合いに繋がり、結局は不合格なのである。したがって、韓国社会では試験を控えて㉖と㉗は縁起の悪い食糧と見なして食べない<sup>38)</sup>。

### 【小括】

韓国社会では、㉑～㉗は試験を控えて縁起の悪い食糧として見なしている。これらの食糧をまとめると、右ページ上の(表5)の通りである。

(表5)の㉑～㉔が試験を控えて縁起の悪い食糧になったのは、近代国民国家成立期、つまり開化期以前に遡ると考える。韓国では、すでに前近代から入学や就職に当たり選抜試験を実施しているからである。

38) 前掲黄京淑・李憲洪「청소년 집단의 속신 문화와 도시 민속 문화—부산 지역 인문계 고등학생을 중심으로—(青少年集團の俗信文化と都市民俗文化—釜山地域の人文系高等学生を中心に—)」241～242頁では、試験を控えて縁起の悪い食糧として「미역국」(ワカメ汁)、「죽」(粥)、「국밥」(クッパ)、「낙지」(たこ)、「빵」(パン)、「라면」(ラーメン)、「짜배기」(油で揚げたねじれた形の菓子)を取り上げている。

(表5) 韓国社会における縁起の悪い食物

番号	食物の名称	縁起の悪い表現	意味合い	備考
㉑	미역국 (ワカメ汁)	미역국을 먹다 (ワカメ汁を飲む)	滑る	
㉒	죽(粥)	죽을 쑤다 (粥を炊く)	もたもたする	
㉓	국밥 (クッパ)	밥말아 먹다 (飯を汁かけにして食べる)	失敗する	
㉔	낙지 (たこ)	낙 (落)	落ちる	
㉕	빵 (パン)	빵점 (零点)	零点をとる	開化期
㉖	라면 (ラーメン)	꼬이다 (こじれる)	こじれる	1963年
㉗	파매기 (油で揚げた菓子)	뒤틀리다 (もつれる)	こじれる	

一方、㉕～㉗は外国から韓国社会に伝わった食物である。つまり、㉕～㉗は開化期以降に伝来し、縁起の悪いイメージが成立したと考える。とりわけ㉖は、日本の技術的影響を受け、1963年に「三養라면(ラーメン)株式会社」が開発した「三養라면(ラーメン)」というインスタントラーメンが始まりである。

繰り返しになるが、㉑～㉓・㉕・㉗は言語学的意味合いと食物の特徴が融合し、また㉔・㉕は語彙の音から生まれたと考える。そして、㉖ラーメンは、インスタントラーメンを開発して販売した後、つまりねじれている形をみてから試験を控えて縁起の悪いイメージとして成立されたと考える。㉗も㉖と同じく形から縁起の悪いイメージが生まれている。特に加工食品の場合、試験を控えて縁起の悪い食物として会社が事前に意識し、製造して販売するのはあり得ない。その意味で、加工食品は誕生してから世間の人々が勝手に縁起の悪いものとして認識するようになったに違いない。

## むすびにかえて

日韓社会では、試験を控えて縁起の良い食物と悪い食物が存在しているが、これらが縁起担ぎの食物として成立する背景は選抜の試験制度が存在するためであると言える。つまり、試験を控えての縁起に関する食物は、選抜試験の実施以降に生まれたと考える。

日本社会における選抜試験による入学や就職は、近代国民国家成立期の明治期から始まっている。一方、韓国では前近代の高麗時代から教育機関への選抜入試と科挙という選抜試験が誕生している。

しかし、縁起担ぎの食物という認識がいつ頃から成立し、いつから社会に広く共有されるようになったのかについて、正確に特定することは難しい。但し、会社が製造する加工食品の食物が縁起担ぎの場合は、その成立時期を明確にすることができる。

日韓社会の試験にまつわる縁起の食物には、相違点・類似点が確認できる。日本社会における縁起担ぎの食物は、江戸時代から始まるお節料理の多くは選抜試験が実施される明治期以降、縁起の良い食物として転換され、また製造会社による加工食品の食物が多い。加工食品は企業が商品販売の一環として縁起の良い食物として作り上げているが、これらは語呂合わせやダジャレによるものがほとんどである。

反面、韓国社会における縁起担ぎの食物は、選抜の試験が始まる前近代に遡り、かつ粘着性のある食物しかなく、今のところ、加工食品はほとんど見かけられない。

ところで、日韓社会では食物は異なるものの、その食物に共通する性質から着目した縁起の良い食物が存在する。例えば、日本のおくら・納豆、そして韓国の餅・もち米の飯・飴がそれに相当する。これらの食物はいずれも粘着性があるため、それぞれの食物がもつ特徴のくっつく、張り付く性質にあやかり、合格を祈願する縁起担ぎである

逆に日韓社会では、試験を控えて共通する縁起の悪い食物がある。例えば、日本の「汁かけご飯」は汁をかけることによって、飯を崩して食べることから「崩れる」ことを連想させるため、縁起が悪い。韓国の「국밥」(クッパ)は言語学的意味と絡ませて試験を控えては縁起が悪い。要するに、この両者の食物は、日韓社会では縁起が悪いことは同じであるが、その着目点が異なる。

他方、日韓社会では同じ食物が異なる縁起、つまり日本では縁起が良く、韓国では縁起の悪いケースもある。例えば、日本社会での「たこ」(蛸)は縁起の良い食物である。英語の「Octopus」(蛸)をもって「置くとパス」というダジャレの意味合いはさて置き、たこの吸盤がくらくつくことから縁起が良い。しかし、韓国社会での「낙지」(蛸)は、縁起の悪い食物である。韓国語の「낙지」における「낙」は、漢字の「落」と音通であるため、「落ちる」に繋がる意味として捉える。日韓社会では、同じ「たこ」であっても着目点が異なるため縁起が分かれる。

この「落」と関わる食物であるが、日本では「落花生」の花が枯れ落ちた後に実をつけることや、名称に「落」がつけられているため、「落ちる」意味であり、縁起の悪い食物と見なしている。韓国でも落花生という語彙は存在するが、ほとんどは「땅콩」(落花生)という固有語の言葉を用いるため、「落」と結びつけ試験を控えて縁起の悪い食物ではない。

日韓社会では、試験を控えて縁起の悪い食物も存在しているが、その特徴として日本では会社の製造する加工食品はほとんどない。しかし、韓国では日本とは異なり縁起の悪い加工食品の食物が存在している。それは加工食品が製造され、販売してから世間の人々が後付けの形で誕生させたと考えられる。

さらに、日韓社会における縁起の良い食物と悪い食物の栄養学的観点から考えると、その良し悪しの矛盾しているところがある。日本社会における縁起の良い食物である「とんかつ」(豚カツ)は油に揚げ、また「ウィンナ」は肉をすりつぶして腸に詰めた食物であるだけに消化に悪く、むしろ試験当日や前日の受験生は食べないほうが良い。一方、韓国社会における縁起の悪い食物の「미역국」(ワカメ汁)や「죽」(粥)は、受験生の体には良い食物である。つまり、「미역국」には多量のカルシウム、カリウム、鉄分が含まれており、体に優しい。また「죽」は粒子が細かくて柔らかく、消化しやすいため、胃の負担が少なく栄養の吸収に良い。但し、これらは試験を控えて縁起担ぎの側面から考えると、縁起の悪い食物である。

これらの食物は、試験を控えて縁起が良かれ悪しかれ、人間が摂取するものである。試験を控えて縁起の悪い食物は、健康に悪い影響を与えるから禁ずるという医学的所見では

ないので、摂取することで人体に害はない。試験を控えて縁起に関わる食物の摂取、つまり守らないから不合格となり被害を被ったり、守るから合格して幸せになったりすることもない。ただ縁起が不吉だとされる食物は避け、逆に縁起が良いと言われるものは取り入れようとするのが人間の普遍的情緒である。その意味で世間の人々は、今日の科学的根拠とは関係なく迷信を信じ続けている。

人間の命を維持するために食する食物も考え方や使い方によっては、そのイメージが変わる。基本的に食物は人間に幸せをもたらすものであるが、まじない的なことの考えに基づいて食べられる食物を口にしないのも結局は人間の幸せの追求につながっている。つまり、選抜試験から生まれた食物に対する縁起担ぎには、目前の目標である合格が幸せだという短絡的意識が色濃く反映されている。選抜試験が無くならない限り、日韓社会の縁起担ぎの意識は続くと考えられる。

要するに、日韓社会に験担ぎの食物があるということの裏を返せば、選抜試験による激しい競争が存在している社会であり、験担ぎの食物はそれを裏付ける証でもある。その意味で選抜試験が存在する限り、競争意識はもとより、験担ぎの食物やその意識は消えないと考える。

今後は、人間の命と幸せの基本原則とも言える食物が果たす役割、とりわけ選抜試験に限る縁起だけではなく、他の生活領域における縁起の観点からも追究をしていきたい。

### 〈参考文献等〉

〈日本〉

『勅令』(第37号、明治20(1887)年7月23日)

伊藤博文編『明治百年史叢書』(秘書類纂9・官制関係資料、原書房、1969年)

『日本国語大辞典』(小学館、1972年)

『千葉県教育百年史』(第3巻、千葉県教育委員会、1978年)

『世界大百科事典』(平凡社、1981年)

『禁忌』(伝統と現代社、1982年)

天野郁夫『試験の社会史』(東京大学出版会、1983年)

天野郁夫『学歴の社会史』(新潮社、1992年)

『料理食材大事典』(主婦の友社、1996年)

金泰虎「日韓の食具と食器・膳・料理の関わり—食具の機能からみた考察—」(『北東アジア地域研究』北東アジア学会、2008年)

金泰虎「日韓社会の「記念日」」(『言語と文化』18号、甲南大学国際言語文化センター、2014年)

『ブリタニカ国際大百科事典』(CASIO、2016年)

吉野剛弘『近代日本における「受験」の成立「資格」試験から「選抜」試験へ』(ミネルヴァ書房、2019年)

金泰虎「日韓社会の諺と慣用句にみる餅の意味合い」(『韓国文化研究』別冊第3号、韓国文化学会、2020年)

金泰虎「韓日中の社会におけるワカメの果たす役割と機能—前近代の史料を踏まえての多義性を中心に一」(『韓国文化研究』第11号、韓国文化学会、2021年)

『東奥日報』(株式会社東奥日報社、2022年1月20日)

〈韓国〉

『高麗史』(巻28、選挙2)

『高麗史』(巻93、列伝6)

『朝鮮王朝実録』(英祖49(1773)年4月9日条)

『朝鮮王朝実録』(正祖15(1791)年6月18日条)

朴贊洙『高麗時代教育制度史研究』(景仁文化社、2001年)

許興植『고려의 과거제도(高麗の科挙制度)』一潮閣、2005年)

黄京淑/李憲洪「청소년 집단의 속신 문화와 도시 민속 문화—부산 지역 인문계 고등학생을 중심으로—(青少年集團の俗信文化と都市民俗文化—釜山地域の人文系高等学生を中心に—)」(『東北亜文化研究』13、동북 아시아 문화학회(東北アジア文化学会)、2007年)

鄭炳模「새벽 과거 시험장의 풍경(夜明け科挙試験場の風景)」(『국악누리(国楽ヌリ)』84輯、国立国楽院、2007年)

『韓国日報』(韓国日報社、2020年9月24日)

#### 【謝辞】

拙稿の作成に当たり、江崎グリコ株式会社、株式会社明治、ネスレ日本株式会社、株式会社ロッテ、カルピス株式会社、日清食品株式会社の広報部から商品に関する様々ご教示を頂いた。表して謝したい。